

日本社会医療学会 第15回記念大会に参加して

IT部長 中馬 健

平成26年10月18日（土）、19日（日）の2日間に渡り、宮崎県延岡市の九州保健福祉大学にて、日本社会医療学会 第15回記念大会が開催されました。

今年は、『地域の活性化から日本の医療と介護を元気にしよう』を大会のテーマとし、記念すべき第15回大会の実行委員長でもあります奈須 開生会長の『私も第1回から参加させて頂き、今回で15回目を迎えました。立ち上げから参加者として考え深いものがあります。昨今、医療、福祉、介護の連携がますます重視されている中、15年前から各メディカルスタッフが一堂に会して行われてきた本学会は、その内容と参加職種の多さにおいて、正に連携という絆で『患者様中心の医療』を成し遂げようとする素晴らしい学会であると思っています。』という御挨拶により大会がスタートしました。



10月18日、大会初日の公開研修会では、九州国際重粒子線がん治療センター（愛称：サガハイマツ）の新開英秀先生による、『心と体にやさしい重粒子線がん治療』というテーマでの講演が行われました。講演の内容としましては、『がんは昭和56年から、日本人の死亡原因の第一位となり、上昇傾向のまま推移しています。日本人の2人に1人はがんにかかる時代といわれ、がんによる死亡数は全死亡数の30%を占めるまでになりました。



更には、九州、山口のがんによる死亡数は沖縄を除き、全国平均を上回っているのが現状であります。このような背景の中で佐賀県鳥栖市に九州国際重粒子線がんセンターが平成25年5月に開設されました。』という説明の後、『重粒子線がん治療法の特徴』、『重粒子線がん治療の流れ』、『実際の治療例』、『サガハイマツの紹介』、『サガハイマツの運営』、『開設から治療開始までのスケジュール』について解説してくださいました。

現在の私たちにとって、非常に興味深いお話であり、また、私たちの住む九州各県から、それほど遠くない佐賀県という地に、これほど素晴らしい施設が出来たということに幸運

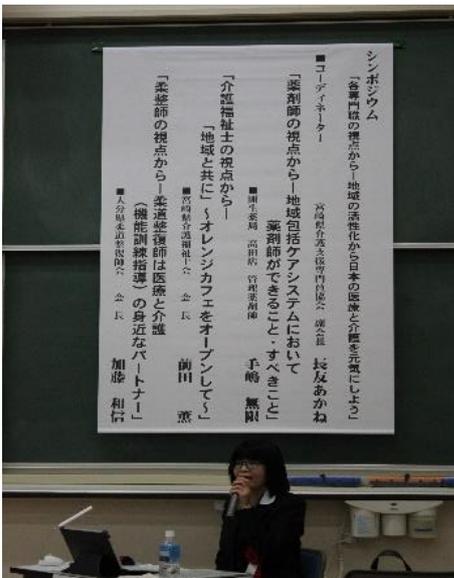


であると同時に、これからの実績に期待したい気持ちでいっぱいになりました。

次に、延岡保健園名誉院長であります、前九州保健福祉大学学長の和田 明彦先生により、『医学・医療はどのように進歩してきたかー「セレンディピティ」による画期的な発見』というテーマで、講演が行われました。

見識ある者が、予期せぬ体験に遭遇し、その真の発見を見抜く能力により、画期的な発見（麻酔薬、狭心症治療薬ニトログリセリン、インスリン、ペニシリン等々）をしてきた。このような歴史的な大発見を『セレンディピティ』と呼ぶ。という説明の中で、これまでのいろいろなエピソードを交えながら興味深くお話をしてくださいました。とても楽しい講演でした。

日を改め、10月19日の本大会では、まず初めに、個別発表が行われました。個別発表では、(公社)熊本県柔道整復師会会長の松村圭一郎先生が、『私の薦める健康法』というテーマで発表されました。発表の内容としましては、近年よく言われていることとして、『如何に健康寿命を延ばすか』ということに対し、『運動法』ということに焦点を当て、歩行についてのお話をしてくださいました。治療家としても非常に勉強になるお話でした。



続いて、各職種4人の方々によるシンポジウムが1時間45分にわたり行われました。その中で、(公社)大分県柔道整復師会会長の加藤和信先生がシンポジストとして発表されました。内容としましては、『柔整師の視点からー柔道整復師は医療と介護(機能訓練指導)の身近なパートナー』というテーマでお話をして下さり、柔道整復師は、医療と介護の二つの分野で地域の人々の身近なパートナーの役割を担ってきていま



す。他の専門職の方々と協力し地域の元気活力に貢献し、職域自らも元気に活動していきたい、

というお話をしてくださいました。

午後からは、特別講演として、岐阜大学大学院医学研究科教授の畦元 将吾先生による『これからの安全安心の医療を考える』というテーマで、講演が行われました。

講演の中で、畦元省吾先生が、『例えば 60 年前の法律が、60 年後の大きく向上した現在の医療現場に合わないことも多々ある。それが、現在の医療行為の妨げやチーム医療スタッフの能力を十分に生かせないこともある。そのことが、結果的に患者様の健康を守れないこともある。だからこそ、我々がチーム医療として解決させる努力・行動をしなければならない』と強くおっしゃっていたのがとても印象的でした。

私は、日本社会医療学会に参加させて頂くのは今回が 2 回目でした。去年、今年と参加させて頂いて思うことは、回を重ねるたびに、私たち他業種の連携というのが、患者様にとって、とても大切なことであり、必要なことであるということです。

これから、現場に戻り、お仕事をしていく中で、他業種の方々との連携を今まで以上に大切にしていきたいと思った 2 日間でした。有り難うございました。

